新年のごあいさつ

新潟市長　中原八一

あけましておめでとうございます。

新津商工会議所の皆さまにおかれましては、日ごろより新潟市政発展のために多大なご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、新潟市産業界のけん引役として地域社会の発展に大きく貢献されていることに敬意を表します。

さて、私は昨年11月に新潟市長に就任し、初めての新年を迎えました。市民の皆さんが生き生きと暮らす「笑顔あふれるまち新潟」に向けて、皆さんと一緒に取り組んでまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

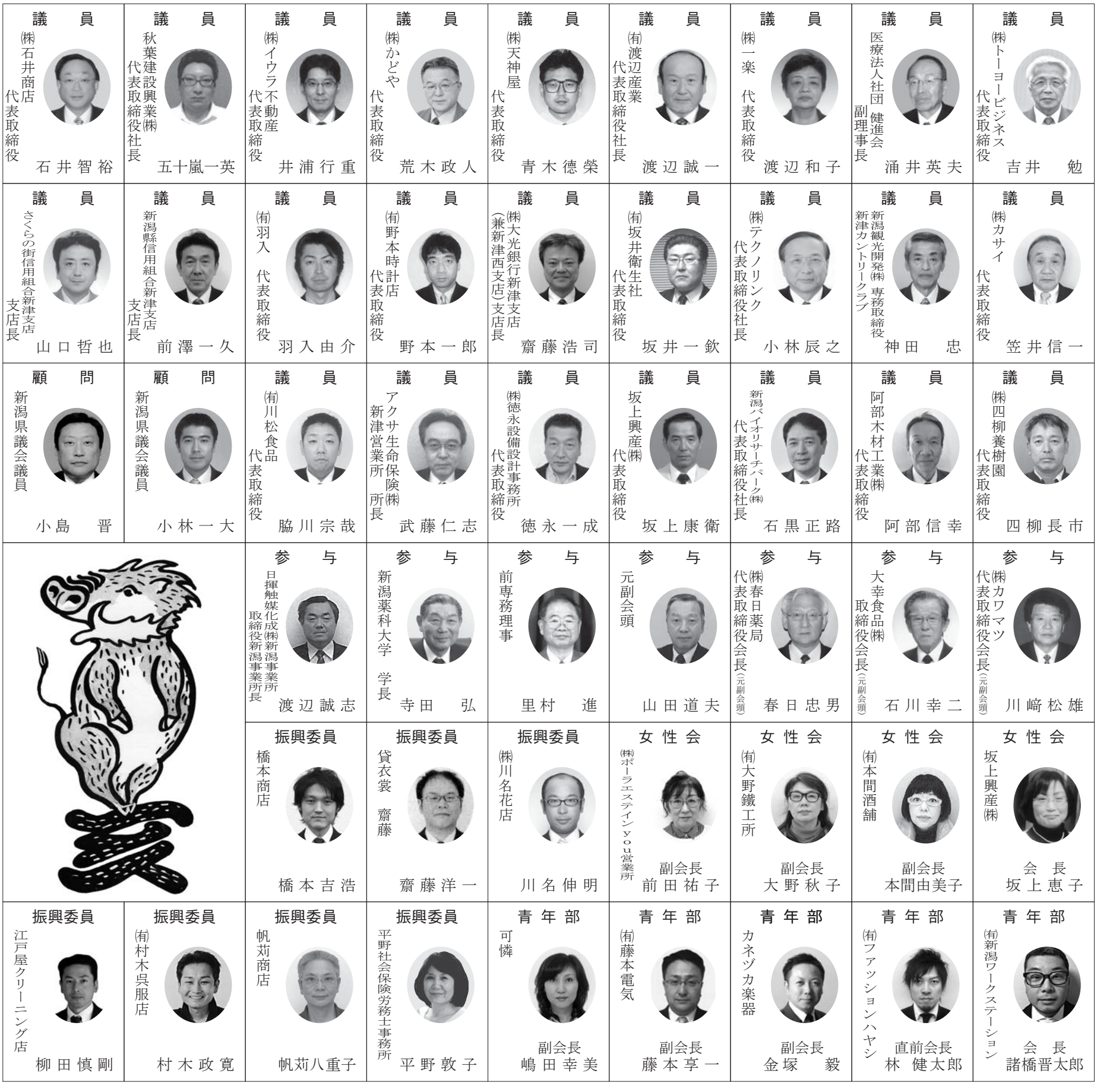
今年1月1日、新潟港が世界に開かれてから150周年の節目を迎えました。これを皆さんと一緒にお祝いし、まち全体を盛り上げていきたいと考えています。

5月には、新しい天皇陛下が御即位され、新しい時代がスタートしますが、5月11日と12日にはG20新潟農業大臣会合が朱鷺メッセで開催されます。過去に開催してきたハイレベル国際会議の運営経験を生かし、国や県そして皆さま方のご協力をいただきながら、会議の成功と新潟の食文化のPRに向けて全力を挙げて取り組んでまいります。

さらに、秋にはJRグループが主体となって実施するデスティネーションキャンペーンがあります。首都圏をはじめ県外から本市へ多くの方にお越しいただけるよう努力してまいります。

これらを契機として本市の魅力を国内外に向け大いにアピールし、交流人口の拡大や本市経済の活性化につなげていきたいと考えておりますので、貴会議所ならびに市民の皆さまのご協力をお願い申し上げます。

さて、秋葉区においては、貴会議所、新潟薬科大学、秋葉区役所の産学官と地域が連携した取り組みを継続し、地域資源の魅力発信を通じたまちづくりや、健康寿命を延ばす仕組みづくりを進めてきました。

昨年は「新津油田金津鉱場跡」が国史跡指定を受け、さらに「朝日・金津地区」が本市の移住推進モデルに指定されるなど、秋葉区の地域資源の豊かさや住みやすさが再認識される年となりました。また、食物繊維が豊富で糖質の吸収を抑える健康フード「もち麦」を秋葉区から広げていくプロジェクトも、生産者・福祉施設・大学・行政の連携で始まりました。

このような地域の宝物を生かしながら、この新しい年も、新潟市そして秋葉区のさらなる飛躍を目指してまいりますので、皆さまのご支援とご協力をお願いいたします。